健康とくらし

第273号　2020年3月

2020年1月末日現在
会員数10,723人
基金合計4億4636万1千円

発行責任者：大塚　研二
岐阜健康友の会
岐阜市北山1丁目13番11号
事務局／TEL（058）244－3522　FAX（058）215－7877
E-mail　tomonokai@gifu-min.gr.jp

岐阜勤労者医療協会50周年記念レセプション

わらべ保育所施設長・元勤医協副理事長　髙田　一朗

華陽診療所開所50周年とあわせ、経営法人である「医療法人岐阜勤労者医療協会」（略称：岐阜勤医協）が創立されて、昨年50周年を迎えました。

50周年を迎えるにあたり、岐阜勤医協理事会は「記念事業委員会」をスタートさせ、いくつかの記念事業を行ってきました。

2019年を通して、華陽健康まつり（感謝祭）、文化講演会、文芸コンクール、みんなでワイワイ企画（平和ツアー、健康マージャン大会）、うたごえ喫茶、記念誌、パンフレット作成などを行い、昨年12月には、「50周年記念レセプション」を開催しました。

「記念レセプション」は、50周年を機会に、お世話になった団体、個人の皆様に感謝の気持ちを伝え、これまでの歴史を共に振り返り、これからの飛躍の契機にしたいとして企画したものです。

友の会歴代会長

全日本民医連藤末会長

岩井理事長

当日は、職員を含め150名の方々に参加をいただき開催することができました。

第一部の記念式は、岩井雄司理事長が、50年の歴史を振り返る開会のあいさつを行ったあと、ご来賓として広瀬洋岐阜市医師会長、浅井徳光岐阜県保険医協会会長、滝谷博志岐阜県総合医療センター院長から祝辞をいただきました。

第二部のレセプションのオープニングは、関孫六太鼓保存会による太鼓演奏をお願いし、勇壮な太鼓の響きでスタートしました。乾杯の音頭を創立時の理事会メンバーであった片桐義之氏にお願いしました。続くご来賓の挨拶を、中川ゆう子県会議員（日本共産党）、山田正行芥見東自治会連合会会長、加田弘子岐阜県原爆被爆者の会（岐朋会）会長、木戸季市事務局長から頂いた後、職員が作成した岐阜勤医協の50年の歴史をまとめたビデオを上映しました。続いて、粕谷志郎華陽診療所所長あいさつ、岐阜健康友の会の歴代の会長（3名）のごあいさつ、駆けつけていただいた藤末衛全日本民主医療機関連合会会長から祝辞をいただきました。

その後も文芸コンクール応募作品集の紹介、岐阜勤医協所属医師の紹介を行いました。

閉会あいさつを松井一樹副理事長（みどり病院院長）が行い、新たな50年に向かっていく決意を述べ、閉会とさせていただきました。

「50周年記念レセプション」は会場の関係もあり、限られた皆様にご案内させて頂きました。これまでご協力をいただいた皆様に、感謝申し上げます。

これからも各事業所を中心に、地域の医療と介護・福祉の活動をより進めるとともに、平和な社会を目指し、地域の皆様、諸団体、岐阜健康友の会と連携し、引き続きだれもが安心して住み続けられるまちづくりを目指してまいります。新たな50年に向かって、今後ともよろしくお願いいたします。

地域（岐阜市在住）のお子様も入所できます

わらべ保育所（事業所内保育事業所）

わらべ保育所は、38年前の1982年7月、みどり病院の職員の子どもを対象にした院内保育所として誕生しました。これまで約200名の卒所生を送り出してきました。

2018年4月、新築移転を機に岐阜市の認可による「事業所内保育事業所」として再出発しました。有料老人ホームすこやか、ケアハウスささゆりに近接しています。

認可保育所として職員枠（20名定員）に、新たに地域枠（10名定員）を加え、30名定員の小規模保育所として運営を始めました。職員数は、常勤保育士5名、非常勤保育士4名、調理師 1名、施設長1名、合計11名です。

「こどもの権利条約」の精神を尊び、子どもたちが心身ともに健やかに育ち、自立できる人に育っていくことをめざし、新築した園舎で職員と地域の子どもさんの保育を提供しています。天気のいい日には豊かな自然の中、近所をお散歩し、地域の皆さんにかわいがっていただいています。自園で手作りの給食・おやつを調理し、離乳食・アレルギー食にも対応しています。

生後6か月から3歳の年度末までの保育をしています。3月は定員いっぱいの30名が入所しています。

岐阜市在住の地域の皆さんからの入所も積極的に受け入れています。ご相談ください。

健康春秋

「スプリング・エフェメラル」日本語にすると「春先のはかない命」一年のうち、エネルギーを摂取する期間が春先にあり、繁殖期の八月を終えると休眠する生物をいいます。例えばミドリシジミやギフチョウの仲間です。ブナ類など落葉広葉樹の若葉を食べて成虫します▼ギフチョウはアゲハチョウ科で日本特産。春先に成虫が出現し、主としてカタクリの花の蜜を吸い、カンアオイの若葉を食べます。春先に可憐な花を咲かせるカタクリやカンアオイのような、春植物もまた、落葉広葉樹の林にしか成長できない植物です▼これらの愛すべき「スプリング・エフェメラル」たちは、地球が寒冷だったころ、現在の温暖帯を覆っていた落葉広葉樹の林の中で生活してきました。身近にあった雑木林も落葉広葉樹の林であり、里山として維持されてきました。焼畑農業もこの林の形成に関わっていたようです▼しかし、郊外の宅地造成や工業団地の造成などの開発事業のなかで、身近にあった自然としての雑木林は減少し、また人の手から離れることで荒れてしまい、それと同時に愛すべき「スプリング・エフェメラル」たちも保護されるべきものとして、私たちの生活から遠ざかってしまいました▼私たちは、地球規模の環境破壊を思うとともに、目の前で進んでいる自然環境の変化にもっと関心を持つ必要があるようです。（K）